

山形県フォレスター連絡会議でクマ問題について学びました

令和6年2月28日(水)、山形県森林研究研修センター(寒河江市)講堂で山形県フォレスター連絡会議を同センターとともに開催しました。

連絡会議は、開催要領において、国有林と民有林の林業技術者が、市町村等に対して適切な指導・助言を行っていくための情報交換や研鑽の場として位置付けられ、山形県森林研究研修センター、村山、庄内、置賜、最上各総合支庁と、山形県内の山形、庄内、置賜、最上各森林管理署等とが参加して毎年開催しています。

今回の連絡会議では、昨今、社会問題化しているクマの出没等の問題を取りあげることとし、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所の大西尚樹動物生態遺伝担当チーム長に講演を依頼したところ、ご多忙の日程の中ご快諾をいただき、当日は「ツキノワグマの生態と大量出没」と題する講演をいただきました。

講演では、ツキノワグマの生態、生活史等から、さらにクマ出没の背景にあるブナの豊凶、人間による山の利用の変化に至るまで丁寧に解説をいただきながら、クマの出没について新しいフェーズに入ったと見られることなどのお話がありました。クマ剥ぎ被害についても、一部の母クマの行動を子クマが学んで、いわば垂直方向に伝播していると考えられること等のほか、長年にわたる研究調査活動を通じて体得された、クマと遭遇した際の対処方法など、職務を山中で展開する私たちにとってたいへん有益な情報も頂戴することができました。

講演後には、置賜森林管理署からクマ剥ぎ被害対策に関する検討会の実施状況等を、山形県森林研究研修センターから同センターが作成した「クマ剥ぎ被害防除マニュアル」についての内容等をそれぞれ共有しました。

クマの問題は森林の取扱い方といった切り口で語られることもあり、普及に携わるなど様々な方と接する機会がある職員が、科学的な知見を身につけることによって、森林や林業と野生鳥獣との関係についての説明能力を高めながら普及活動を展開していけるようになる上で意義ある内容となったものと考えています。民有林と国有林の緊密な連携が多岐にわたって求められる中、当署では、山のため、人のため、地域のためになる人材の育成に着目して取組を推進していく考えです。

